



平成25年度 草の根・人間の安全保障無償資金協力
「対がんセンター医療機器整備計画」
「ピエドラ・デ・アモラル初等・中等学校増築計画」
契約署名及び小切手供与式

2013年10月31日、在パナマ日本国大使館において、「対がんセンター医療機器整備計画」及び「ピエドラ・デ・アモラル初等・中等学校増築計画」の契約署名及び小切手供与式が行われました。同式典には後藤参事官が当館側代表者として出席し、ミルナ・デ・クレスポ教育次官、クリストバル・サルミエント教育省国際協力局長、バネッサ・デ・クルス 全国対がん協会会計役員及びアルフレド・ルシアニ・フォント パナマ・キワニス・クラブ代表らが被供与国側代表として出席しました。

「対がんセンター医療機器整備計画」の被益団体である全国対がん協会は、パナマ県パナマ市ベジャ・ビスタ地区において対がんセンター(ANCEC)を運営する NGO 団体で、パナマ国内の死亡要因第一位であるがんの撲滅のため、安価ながん検診と治療を過去40年以上にわたり提供してきました。本資金供与によって、同センター内で不足しているデジタル超音波検査器1台とモニター付膣拡大鏡2台の医療機器が整備され、さらに多くの低所得層の市民に対して、安価な定期がん検診と治療が施されるようになることが期待されています。

「ピエドラ・デ・アモラル初等・中等学校増築計画」の被益者であるピエドラ・デ・アモラル初等・中等学校は、ベラグアス県カニヤサス市の遠隔地域ピエドラ・デ・アモラル村に所在する公立学校であり、生徒172名、教員9名が同校に在籍しています。本資金供与により同校で不足している4教室を有する新校舎の増築が実施され、劣悪な環境下で就学している同校の多くの生徒の教育環境が大幅に改善されることになります。

後藤参事官は日本大使館を代表して、「教育と保健は、人間の安全保障の基礎をなす重用分野であり、経済、地域格差に苦しんでいるパナマ国民に対する大きな被益効果を期待してこれら2つの資金協力の実施を決定しました。今回の供与が、パナマが抱える課題の解消のための助けとなり、持続的な国家の発展に貢献することを心から願っています。」と挨拶しました。

【対がんセンター医療機器整備計画への供与額: 59, 733米ドル】
【ピエドラ・デ・アモラル初等・中等学校増築計画への供与額: 121, 904米ドル】

—当日の様子—



日本大使館を代表して挨拶する後藤参事官



クレスポ教育次官による挨拶



全国対がんセンターへの資金供与



パナマ・キワニスクラブへの資金供与



ピエドラ・デ・アモラル初等・中学校関係者との記念撮影